

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0590900023		
法人名	株式会社プラントス		
事業所名	グループホームみさと		
所在地	秋田県鹿角市花輪字寺ノ後42番地10		
自己評価作成日	令和6年2月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人秋田県社会福祉士会		
所在地	秋田県秋田市旭北栄町1-5 秋田県社会福祉会館内		
訪問調査日	令和6年3月6日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様にホームでの生活が単調なものにならないように、積極的に行事を計画している。全体レクリエーション
 の他、個々の状態に合わせたレクリエーションをそれぞれの担当スタッフが検討し、外出などを楽しんでいただいで
 います。リビングの壁面にはそれぞれ月担当のスタッフが季節に合った装飾をするようにしており、その作品作りを
 入居者様と一緒に行動などして、季節が感じられるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・入居者のかかりつけ医を継続して利用できるように支援しており、地域のかかりつけ薬局とも連携している。
- ・市内のグループホーム連絡協議会と連携しながら、入居者の接遇向上に努めている。
- ・BCP(業務継続計画)を整備しており、地域と連携した災害対策を構築している。
- ・季節を問わず外出を楽しむことができるような、多彩な外出支援に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~46で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
47	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:19,20)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	54	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:8,9,15)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
48	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:14)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	55	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,16)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
49	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:19)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	56	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
50	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	57	職員は、生き活きと働けている (参考項目:10)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
51	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:41)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	58	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
52	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	59	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
53	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	入居者様それぞれがゆったりと生活していただけるように設定した理念をかかげ、達成できるようスタッフそれぞれが心がけている	理念は施設開所後に入居者の状況に応じて見直しを図っている。職員の意見を取り入れた理念で、皆で共有し、同じ方向を目指すものとなっている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 入居者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域より米を購入したり、野菜をいただくなどして交流がはかれるようにしている	近隣の住民から米を購入するなど、地域との交流を図っている。入居者と地域住民との交流があるものの、地域の自治会等、他団体との交流はあまりみられない。	市内のグループホーム連絡協議会との関りを活かして、自治会等、地域の団体と活発に交流することを期待する。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議では、ホームの現状や認知症を持った方々の行動や様子についてお伝えするようにしている	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、入居者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	入居者様の介護度や年齢の変動、行事の実施状況や事故報告等を行い、情報交換をしている	運営会議には市の職員、自治会役員、民生委員等が参加している。会議では施設の現状を報告したり、地域の高齢者に関する情報交換等を行っている。	運営会議のメンバーに地域包括支援センターの職員も参加してもらうことで、新たな視点からの意見が出されることを期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、運営状況をお伝えしたり、行政の情報をお知らせいただいている。	市の担当者とは、生活保護を受給している入居者に関して随時連携して支援している。また、施設の申込状況に関して情報を共有するなど、常に連携を保っている。	
6	(5)	○身体拘束及び虐待をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」及び「高齢者虐待防止関連法」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組むとともに、虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	社内研修を行い、虐待防止と身体拘束について毎年確認している。コールマットを用いたりして、安全確保できるようにしている。	社内において、身体拘束防止及び虐待防止に関する内部研修を開催して、職員の意識を高めている。今まで身体拘束を実施した事例はない。毎月のユニット会議では、虐待には至らないが不適切なケアになっていないか、職員同士互いに確認し合い、注意を促している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要がある場合はサービスの利用につなげられるように研修等に参加したり、ご家族様に提案させていただけるようにしている		
8		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、入居者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時にはご家族様や入居者様と一緒に重要事項説明書を読み合わせ、サインをいただくようにしている		
9	(6)	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、要望、苦情等を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、適切に対応するとともに、それらを運営に反映させている	ご家族様の面会時にはスタッフが付き添ったりして状況をお伝えするようにしている。ささいな会話でも持つようにして、ご家族様が話しやすい雰囲気になるように配慮している。	毎月家族宛におたよりを送付して、施設の状況を伝え、随時連絡を取り合っている。家族の面会時には、施設の運営面に関する意見をいただくこともあり、必要に応じて改善するように取り組んでいる。	
10	(7)	○運営や処遇改善に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営や職場環境、職員育成等の処遇改善に関して、職員の意見や提案を聞く機会を設け、それらを適切に反映させている	毎月のユニット会議でスタッフが自由に意見を言える場を設けている。勤務希望やその他の要望もいつでも申し出てもらえるように声がけをしている	毎月開催されるユニット会議にて、業務改善や入居者への接遇に関して様々な意見が出され、運営面の改善につなげている。会議以外でも、随時職員の意見や悩みを聞く体制を構築している。	
11		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	市のグループホーム連絡会議が月に1回あり、積極的な情報交換ができるようにしている。また非常時に近隣のホームと協力しあえるよう日頃から話をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居してまもなくは特に積極的に声がけをしたりかかわりを持つようにして、信頼関係を築くことができるように配慮している。		
13		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時のアセスメントの際に、ご家族様の心配事や要望が伺えるように声がけをしている。		
14		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活の中で一緒に食事やティータイムを一緒にしたり、手作業を共に行うなどするように配慮している		
15		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	なるべく受診の際は一緒に行っていただくなどして心身の状態を把握していただけるようにしている		
16	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように、支援に努めている	ご家族様の希望でご自宅への一時帰宅やお寺やお墓まいり等に積極的にお出かけいただけるように支援している。	入居者の昔馴染みの美容院に連れて行くなど、従来の関係性が途切れないように取り組んでいる。また、知人の訪問を歓迎したり、家族からの電話を取り次ぐなど、昔からの関係が継続できるように支援している。	
17		○入居者同士の関係の支援 入居者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに入居者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士の関係性に配慮し、座席を工夫したり、職員が間に入るなど、円滑な関係を築くことができるように、日々工夫している。		
18		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も届いてしまった郵便物のやりとりや、必要時には対応させていただくようにしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向、心身状態、有する力等の把握に努め、これが困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話の中でおもいや希望が把握できるように積極的に声がけを行っており、また入居者様がなんでも話しやすくなり雰囲気をつくるように配慮している	入居者との日常的な会話において、要望等を話しやすいように配慮している。また、居室担当者が積極的に入居者の思いを把握するように努めている。	
20		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居の際は、ご家族様や居宅ケアマネに状況をお伺いしている		
21	(10)	○チームでつくる個別介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した個別介護計画を作成している	ご家族様のご要望を面会時等にお聞きできるようにしたり、月1回のユニット会議でスタッフ同士の情報共有をしたりして、ご本人様が安心して生活できるように配慮している。	個別介護計画を立案する際は、ユニット会議において担当ケアマネ、居室担当者から出された意見を参考にしている。一方で、入居者及び家族の要望はあまり具体的に記載されていない。	個別介護計画を作成する際に、普段の入居者への支援内容や家族の要望をより具体的に取り入れることで、ケアと一体となった支援になることを期待する。
22		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や個別介護計画の見直しに活かしている	モニタリングやユニット会議などで情報を共有して計画に生かすことができるようにしている		
23		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご家族様や親族の方の面会や、集まり事に参加できるように相談にのっている		
24	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居後も入居前のかかりつけ医を継続して受診するようにしている。その後の受診先の変更や追加などについては都度ご家族様にご意向を確認している	入居者が入居前から受診している医療機関を継続して利用できるように支援しており、随時往診も行っている。また、地域のかかりつけ薬局と連携しており、内服薬等を配達していただいた際に薬剤師から説明を受けたりしている。	
25		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の入居者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の資格を持った職員がおり、必要時相談できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26		○入退院時の医療機関との協働 入居者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時の情報提供などはご家族様と一緒にこなえるようにしたり、物品の準備などを行っている。退院時にも迎えにいたり、退院日の調整の連絡をもらったりしている		
27	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	心身のレベル低下により他施設への入居の申し込みを行うこともある旨を入居時にお話ししている。大きく状況が変化している場合など早めにこまめにご家族様にお伝えするようにしており、都度話し合えるようにしている	医療的ケアが必要になったら、退所要件になることを入居時に説明している。一方で、重要事項説明書において、入居者の長期入院等により契約が解除される旨は記載されているものの、重度化に関する指針等は具体的に整備されていない。	医療職の意見も取り入れながら、ホームとしての重度化に関する指針等を整備することで、利用者・家族の理解が得られやすくなると思われます。
28		○急変や事故発生時の備え 入居者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の救急要請などについて各ユニットに貼付している		
29	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず入居者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や水害の避難訓練を行い、非常時の動きを確認できるようにしている	火災や水害を想定した避難訓練を実施しており、BCP(業務継続計画)も整備されている。グループホームの連絡協議会において、有事の際に協力し合うことを話し合っており、地域と連携した災害対策を構築している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴や排泄時など、個々にあった声かけやタイミングを検討し、工夫している	入居者を尊重し、常に適切な声掛けが出来るように取り組んでいる。また、入居者の羞恥心に配慮し、入浴や排泄支援において、プライバシーを損ねないような同性介助に応じている。	
31		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々、好みの服を着ていただけるような声かけをしている。新しく購入する際も、一緒に買い物に行ったり、好みのものが買えるようにしている		
32	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、入居者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	山菜など旬なものを食べていただけるようにしたり、だまっこ作りなど皆で下ごしらえする行事を企画している。弁当や外食なども行うようにしている	毎月様々な形態で行事食及び外食を企画している。入居者が山菜の皮を剥いたり、だまこもちを作るなど、従来の経験を活かした食事支援に取り組んでいる。	
33		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量のチェックをし記録している。希望により夜間等居室で自由に補水できるようにしたり、定期的に水を交換するなどしている		
34		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入れ歯は毎晩消毒し、毎食後はそれぞれに合った口腔ケアをおこなっている。		
35	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄確認表を用いて、間隔をみて声かけをしたり、夜間のみポータブル使用や、排便のみトイレ利用など、それぞれの力を活かして無理のないようにスムーズな排泄ができるように促している。	入居者個々の排泄間隔を把握し、適切に誘導できるような排泄支援に取り組んでいる。おむつを使用している入居者でも、なるべくトイレで排泄できるように支援している。	
36		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取を促し、自然排便があるように心がけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている	少なくとも週2回は入浴していただけるように入浴確認表を用いて促している。またご本人様からの希望があれば入浴しているようにしている	週に2回は入浴できるように取り組んでおり、入居者の要望に応じて柔軟に対応している。本人の希望に応じて同性介助も実施している。	
38		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中も自由に休んでいただけるようにしている、夜間の睡眠状況をみて休息を促したりしている		
39		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬局に配送を依頼しており、配達の際には情報交換等を行っている		
40		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	希望により好みの飲み物を別途購入し提供したりすることもある。テーブル拭きや作品作りなど軽作業も一緒に行えるようにしている		
41	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとのドライブや、近所の散歩、ご家族の希望により外出していただいたり、積極的に外出できるように配慮している	季節に応じた外出や市内の催事の見学等、多彩な外出支援に取り組んでいる。冬期間においても、ビニールハウス内のいちご狩りを楽しむなど、季節を問わず外出を楽しむことができるように支援している。	
42		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族様から事務所にお預かりさせていただいているお小遣いの他に、ご自分でお持ちの方もおり、日用品の購入に使われることもある		
43	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、入居者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節が楽しめるような壁面作りに力をいれており、毎月担当者が工夫して装飾している。エアコンや加湿器を使用し、快適な環境となるように配慮している	施設内には入居者が作成した作品が飾られており、季節感を味わいながら楽しんでいる。共用空間からは採光のための中庭を眺めることが出来、室内にいながら季節を感じることができている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った入居者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ユニット毎にテーブルの配置を工夫したり、入居者間の関係性を考えながら都度座席を変更したり希望に応じて対応できるようにしている		
45	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家人の写真を飾ったり、家人からの贈り物を飾ったりなど、居室内は自由に飾ったり、なじみのものをお持ちいただいている	居室内はベッドとクローゼットが完備している。入居者は自宅から使い慣れた家具や家電製品、生活用品等を自由に持ち込むことができ、従来の生活が継続できるように支援している。	
46		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	必要に応じてトイレや居室の目印や案内板をつけてわかりやすくなるように工夫している		